

# 鳥海山・飛島ジオパーク構想

—地球活動の遺産を地域の元気に—

去る8月26日、秋田県にかほ市において「鳥海山・飛島ジオパーク構想推進協議会設立準備会が開催され、関係するにかほ市、由利本荘市、遊佐町、本市が一体となって同構想の推進に当たることを決定しました。

今回は「ジオパーク」にスポットを当て、その可能性とジオパークが地域にもたらす効果などを探ります。

## ジオパークとは

NPO法人 日本ジオパークネットワークによる定義では「ジオ（地球）に親しみ、ジオを学ぶ旅、<sup>\*</sup>ジオツーリズムを楽しむ場所」。ユネスコの世界遺産が、対象の保全に主眼を置いているのに対し、ジオパークでは自然環境を保全しつつ、ジオツーリズムや教育、防災など各分野で活用することが求められます。

※ジオツーリズム／地形・地質や、そこに暮らす人の生活や文化について学ぶ旅

次のページでは、わたしたちがジオパークについて説明するよ！



あののん

「ジオパークQ&A」

多くの名前は「ミスタージオパーク」。  
ジオパークのことならなんでも聞いてね



Q. ジオパークってなに？

ジオツーリズム(ジオ(地球)に親しみ、ジオを学ぶ旅)を楽しむ場所。日本国内では36のジオパークが認定されていて、その中でも山陰海岸、島原半島など7地域は、世界ジオパークネットワークによる、より厳しい基準の審査を経て、世界ジオパークに認定されているんだ。



▲平成新山(島原半島ジオパーク)



▲鳥取砂丘(山陰海岸ジオパーク)



東北地方では男  
鹿半島・大潟警  
梯山、八峰日神  
ゆざわ、三陸の  
5地域が日本ジ  
オパークに認定  
されているよ



Q. ジオパークって誰が決めるの？

NPO法人日本ジオパークネットワークの審査により認定されるんだ。認定されるためには、ジオサイトの価値、住民へのジオパーク活動の浸透度、協議会の運営体制など多くの項目を満たす必要があるよ。また認定から4年後には再審査が行われ、ジオパークとしてさらなる進化が求められるんだよ。

※ジオサイト/ジオパーク内で、地形や地層などの重要な要素を観察できる場所

住民の認知度も重要  
なんだね



Q. ジオパークに認定されるとどんないいことがあるの？

ジオツーリズムによる観光客の増加、職業ガイド養成による雇用創出、お土産品開発などによる産業振興、子どもたちへの自然科学・防災教育の効果、住民参加による一体感の醸成が期待されるよ。また自然環境の保全への意識が高まることも効果の一つだね。エコツアー<sup>\*</sup>の拡大も期待されるんだよ。

※エコツアー/自然環境や、歴史・文化などを観光の対象としながら、その持続可能性を探る旅行



▲ジオガイドによるツアー  
(山陰海岸ジオパーク)



Q. 鳥海山・飛鳥ジオパーク構想って？

鳥海山周辺および飛鳥を範囲とし、日本ジオパーク認定を目指す構想だよ。秋田県のかほり市と由利本荘市、山形県遊佐町、本市が平成27年度に推進協議会を設立し、平成28年度の日本ジオパーク認定を目指すんだ。



鳥海山を  
囲む4つ  
の市や町  
が協力し  
ていられ  
るんだよ







## Q. 私たち市民は何をすればいいの？

今後、ジオサイトのガイド養成講座などを開催するので参加してね。また他の先進地と同じように、飲食品やTシャツ、タオル、料理のメニューなど、ジオパークの関連商品開発

も予定しているので、アイデアをどんどん出してほしいな。それに、例えば自家用車の使用を控えて二酸化炭素排出の抑制を心掛けるなど、自然や環境に優しい生活を送ることも大切だね。



▲飛鳥ガイド養成講座の様子



私たちが市民の  
参加が不可欠  
なんだね



鳥海山・飛鳥ジオパーク構想  
推進協議会設立準備会  
アドバイザー  
宮原育子氏

宮城大学事業構想学部事業計画学科教授。地域資源を生かした観光の研究が専門。東京都出身で、平成14年に高島町に移住。日本ジオパーク委員会委員として、ジオパークの審査・認定に関わる。

質問は以上かな？ジオパークに関して、ホクよりもっと詳しい先生がいるよ。鳥海山・飛鳥ジオパーク構想推進協議会設立準備会のアドバイザー、宮原育子先生にお話を聞いてみよう



もしえのん

## ジオパークは最高の地域づくり

ジオパークとは、地球の歴史をたどることができる地質・地形や人の文化・生活などを体系的に整備したエリアをいいます。地域を野外博物館と捉え、地質・地形をベースに地球科学的な学習や、観光を楽しむ場所です。

国内には現在36のジオパークがあり、それぞれ日本列島の形成に関わる太古の地質や、火山、海岸地形など、多様なジオサイトを有しています。複数自治体にまたがるケースも多く、全体の約8割に当たる132の自治体にジオパークが存在します。ただし手を挙げればすぐにジオパークを名乗れるわけではなく、NPO法人日本ジオパークネットワークによる審査と認定が必要です。

ジオパークの活動の利点としては、ジオツーリズムによる観光振興や地域住民の地域理解への効果などが挙げられます。ジオパークの認定を受けるには、行政や民間企業、研究者、市民に至るまで、地域一体と

なった取り組みが求められます。裏を返せばそれは、ジオパークという目標に向かって、多くの人々が連携・協力する機会を得ること。そこに、新たな交流の形、ビジネスチャンスが生まれるかもしれません。

また市民が地域の自然的特徴を理解することは、災害への備えにつながり、防災上の効果も期待されます。

自然の恵みとリスクを、自分たちの足元から学び、伝えていく。ジオパークは最高の地域づくりであると、私は思います。

地域を良く知り、誇りを持つ人が多いまちは質の高いまちです。酒田には、豊かな自然と歴史があると感じます。ぜひ皆さんにも、地域の自然を理解し、その魅力を再発見してほしいですね。ジオパーク関連のシンポジウムや学習会への参加、ジオガイドへの挑戦を通じ、どんどんジオパークの活動に参加してください。

市民の理解・参加なくして、ジオパークの認定はあり得ません。酒田のまちのいたるところに「ジオパーク」の文字が並び、市民が観光客に地域の魅力を説明する、そんな日が一日も早く訪れることを期待します。

※ジオガイド/ジオツーリズムにおける案内人



# 鳥海山周辺の見どころマップ



## 活火山・鳥海山がもたらすもの

ジオパークの核として鳥海山を見たときに、重要なキーワードとなるのは「火山」です。噴煙を噴き上げる鹿児島県桜島のような、見目の分かりやすさには欠けませんが、鳥海山は日本海側を代表する火山であり、紛れもない活火山。いつか必ず噴火します。火山灰による被害や土石流、火山泥流などは、起こりうる災害です。

鳥海山は50万年の間に幾度となく噴火や土砂崩れを繰り返し、今の形になりました。周囲に災害をもたらす火山活動ですが、ジオパークの認定を目指すためには、重要な要素となります。また独立した火山が日本海と直接接しているという他にはない特徴は、有力なジオストーリー<sup>※1</sup>を生み出しています。

対馬暖流の上を通過する大陸からの季節風が、水蒸気を吸い上げ、鳥海山周辺に豊富な降雪・降雨をもたらします。水分は溶岩に浸透し、数十年かけて麓に湧き出ます。鳥海山は数十年分の水を蓄える「天然のダム」としての役割を果たしているのです。

鳥海山周辺に存在するジオサイトは、鳥海山の火山活動を物語る重要な証拠であり、多くの人を引き付けています。山形県側では、遊佐町三崎公園周辺の溶岩地形や、牛渡川などが有名で、酒田市にも地すべりが生み出し

鳥海山・飛島ジオパーク構想  
推進協議会設立準備会  
アドバイザー  
林 信太郎氏

北海道出身。秋田大学教育文化学部教授、秋田大学教育文化学部附属小学校校長。火山地質学が専門で、鳥海山をメインの研究テーマとする。鳥海山から持ち帰った岩石などをとに地質図の作成などを行う。



た鶴間池があります。鳥海山は火山として被害をもたらすと同時に多くの恵みももたらしてきたのです。

私は35年にわたって、鳥海山の研究に携わってきました。今回、ジオパーク構想のアドバイザーとして、ようやく鳥海山の周りに住む皆さんに恩返しができると思っています。

ジオパークは足元という大地から地域を見直すことで、その良さを再発見できるもの。ジオパーク認定は、住民の参画なくしてあり得ません。積極的に参画して地域の良さに気づき、大いに発信してほしいと思います。

※1 火山泥流／噴火の熱により、噴火口付近の雪や氷などが溶け、周辺の土砂を巻き込んで泥流となって流れ下る現象

※2 ジオストーリー／ジオパーク・ジオサイトが地域の風土や文化にどのような関連があるかを示す物語。ジオパーク認定の際に重要



# 飛島の見どころマップ



## 奥深き島・飛島の持つ物語

民俗学から見て飛島のジオサイトとしての特徴は、その「物語性」にあると思います。島の地質・地勢に、海の民の生活文化がこれほど深く溶け込んでいる島を、私は他に知りません。

例えば小物忌神社の火合わせ神事<sup>※1</sup>や、手長足長<sup>※2</sup>などの風習や伝説。その多くは、鳥海山と飛島を結びつけるもので、古くより両者は対となる聖地だったことがわかります。また飛島には二つの海蝕洞窟があります。一つは御積島の洞窟で、龍神が祭られている女人禁制の聖なる地です。もう一つは「テキ穴」、この洞窟からは平安時代の人骨が多数発見されました。「テキ」とは「狹」の意で、エミシともエビスとも読めます。エビスは漁民が信仰する神ですが、岸に寄ったクジラや水難死者などもエビスということなどから、私は古い時代に水難死者を葬った洞窟ではなかったかと推測しています。このように洞窟ひとつ取り上げても、多様な物語が存在します。

自然に目を向ければ、トビシマカンゾウと島民の共生の歴史や、さまざまな動植物の北限・南限になっていることなど、飛島は物語にあふれています。これはジオパーク認定に欠くことのできないジオストーリーになると思います。

鳥海山・飛島ジオパーク構想  
推進協議会設立準備会  
アドバイザー  
岸本誠司氏

とびしま漁村文化研究会代表、  
とびしま未来協議会メンバー。  
専門は民俗学、地域研究。「飛島  
学叢書」の刊行などを通じて、飛  
島の生活文化の継承活動を行  
っている。兵庫県出身。



飛島は現在、高齢化、人口減少という問題に向き合っています。今後、島が成り立っていくためには、多様な関わりを深めることが重要です。ジオパークの活動を通じ、多くの人に飛島を理解し、大事に思い、共感してもらうことができれば、その共感、島を守るための協働につながっていくと思います。

鳥海山・飛島ジオパーク構想では、関係する4つの市町が、それぞれの土地・地形が持つ多様性を認め合うことが大事だと思います。ジオパークを通じて「小さな場所の持つ物語」を、多くの人に再発見してもらいたいと思います。

※1 火合わせ神事/毎年、7月14日に大物忌神社(鳥海山山頂・御浜・吹浦(遊佐町)、宮海)と飛島の小物忌神社で同時に行われる神事で、お互いを望む斎場で火を焚き、互いの火の見え方によって、大漁と五穀豊穡を占う

※2 手長足長/鳥海山に住みつき、悪さを働いていたという化け物。慈覚大師がこの地を訪れ、手長足長を退治した際に、鳥海山の山頂がはじけ飛び、海に落ちて飛島になったなど、さまざまな伝説がある